

# 水産経済新聞

第14345号 THE SUISAN-KEIZAI (昭和26年7月11日 第3種郵便物認可)

4月17日 月曜日 Monday

2006年(平成18年)

発行所 水産経済新聞社  
 東京都港区六本木6丁目8番19号  
 電話 03-3404-6531(内)7106-0032  
 FAX 03-3404-0863  
 郵便口座番号 00160-6-92557

## コスト削減に効果

大日本水産会 水産部会  
 関連産業部会

巻網船

ミニ船団化で報告

### 「経営成り立つ」

福島漁業の  
 第88惣寶丸

大日本水産会は13日、関連産業部会第65回業際懇談会を開催し、青森・八戸の福島哲男福島漁業社長が、巻網漁業ミニ船団化の結果を報告した。漁船漁業構造改革推進会議の成果として建造された「第88惣寶丸」による大中型巻網漁船のミニ船団実証化事業は、燃油高騰などの厳しい環境でありながらも、コスト削減効果が表れ、経営が成り立つことが証明された。



昨年の北太平洋の大中型巻網操業は、4月から10月までの操業ではマグロの水揚げが極端に少なく、カツオやサバ、イワシが魚価安となったため、水揚げ金額が伸び悩み、88惣寶丸船団の水揚げ金額は6億6500万円となった。

も3割も多い燃油を使用せざるを得なかったものの、全体としてはミニ船団化によるコスト削減効果が表れ、減価償却費などを除いて6億330万円となった。88惣寶丸の取得価格はすべてで約16億円。法定償却の9年では17年度の減価償却費は

結果を報告する福島社長は「この約1億9600万円となるが、福島社長は「この船は20年使えらる」と考えており、その考えに基づいて計算すると、水揚げ金額が平年並みであれば、経営は成り立つ」と説明した。

福島社長は「巻網漁船は安全で人命を第一に考え、有限資源を適切に利用し、少ない後継者でも成り立つ、スリム化した漁船が必要だと考えてきたが、ようやく実現した」と語り、ミニ船団化による省力化・省コスト化の実証化が成功したことと、乗組員に優しい漁船ができたことにホッとした表情をみせた。

課題としては、今回もコスト高要因となった運搬船との性能差の解消、操業で余剰となったフラインクの貯蔵などの有効利用など、コスト削減の検討が必要とした。大中型巻網のミニ船団

化が目されるだけに、懇談会には約80人の関係者が参加した。「技術革新に現場はついていけるのか」との問いも出たが、福島社長は「本人の意欲がないと話にならない」と、現場も新たな取り組みに対して積極的に

あることが成功のカギであることを強調した。